

前月末の子どもの姿

- クラスごとに行った「お店屋さん」の活動経験により、クラス意識が芽生え、クラスの友達や担任と安心して生活が送れている。
- 友達の存在が少しずつ大きくなり、気の合う友達と一緒に好きな遊びを継続して楽しんでいる。

今月のねらい

- 同じ目標に向かって、みんなで参加する楽しさを感じたり、達成感を味わったりする（運動会）。
- 友達とのかかわり合いの中で、自分の思いを言葉で伝える喜びを感じる。
- かけっこなどを通して、体を動かす楽しさを感じる。
- 体の使い方や前後左右の感覚を意識して生活する。

クラス作りのポイント

- 子ども同士のかかわりが増えてきた今だからこそ、さらに友達関係を広げ、かかわりが深まるようなきっかけを作りたい。3～4人のグループで参加できる活動内容を考え、手作りボードゲームの作成など、子ども同士でかかわり合う時間のサポートを心がける。
- 集団で取り組む運動会に向けて、一人ひとりの頑張っている姿、楽しんでいる姿をクラスの中で認め合う時間を設けたい。

新幼児と保育

2022年夏号

別冊ふるく

より掲載



公式サイト
「みんなの幼児と保育」

	1・2週	3週	4週	5週
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ●生活のリズムを取り戻す。 ●夏休みの思い出について話してみる。 ●こどもまつりに参加し、年長児とのかかわりを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●友達と一緒に歌ったり踊ったり、表現する楽しさを感じる。 ●おじいちゃんやおばあちゃんに渡す絵手紙で自分の気持ちを表現する。 ●食事において、自分の食べられる量を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●10月に開催される「運動会」という目標に向けて、「楽しい!」「やりたい!」と感じるイメージを広げる。 ●自分の力を出して走る楽しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●意欲的に運動会の練習に参加する。 ●秋の自然を感じる。 ●毎日使っている保育室をきれいに掃除する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●生活の流れを思い出し、生活しやすい保育室の使い方をクラスの友達、保育者と一緒に考える。 ●クラスの友達の前で話をする、クラスの友達の話や話を聴くことの経験を積み、自分の言葉で気持ちを伝えるうれしさを感じながら、相手の気持ちも受け入れる。 ●年長の子どもたちが中心となって準備してくれたこどもまつり（おまつりごっこ）に参加して楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して楽しんでいる遊びの紹介タイム、ダンスなどのショータイムを設け、みんなで楽しむ。 ●敬老の日があることを知り、自分のおじいちゃんやおばあちゃんについて話したり、友達が話すおじいちゃんやおばあちゃんとのエピソードに共感したりする。 ●配膳の際、自分の食べられる量を考え、加減を保育者に言葉で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運動会で踊る遊戯を導入する。 ●お話の世界をみんなで楽しみながら、歌ったり踊ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●10月の運動会当日の内容について、クラスの友達や保育者と話す。 ●「やりたい!」と思う気持ちを大切に、自分の力に自信を持って運動会の練習に参加する。 ●園内に落ちている枯れ葉やドングリなどを拾う。 ●ロッカーや下駄箱など、毎日使っている場所の拭き掃除をする。雑巾の絞り方をもう一度確認する。
季節行事の変化	<ul style="list-style-type: none"> ●2学期始業式 ●こどもまつり（おまつりごっこ） 	<ul style="list-style-type: none"> ●母親教室（保護者参加） ●幼稚園 DAY（未就園児参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ●敬老の日 ●秋分の日 ●お誕生会 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難訓練
環境構成と援助・配慮のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ●1学期の経験を踏まえて、生活環境などについてクラス内で話をしていく。片づけ場所の提案や、落としものはどうしたらよいのかなど、そのつどみんなで生活しやすい方法を考えていく。 ●所持品の管理方法のひとつとして、自分の作った泥だんごや見つけた草花なども「自己管理」し、「活動のつづき」ができるよう、ペットボトルバッグの製作や、管理する環境の提案などもしていく。 ●作った泥だんごは下駄箱にしまったり、保護者に見せたい子どもは泥だんごをペットボトルバッグに入れて持ち帰ったりする。次の日も同じバッグを持って来ることで、新たにビニール袋を使うことがなくなり、環境にもやさしい生活を保育に取り入れられるようにする。ペットボトルバッグの使い方は、保護者とも共有しておく。 ●集団の中で、自分の気持ちや考えを言葉で表現することの経験を積む段階のひとつとして「思い出の絵」を描き、その絵について自分の言葉で紹介していく方法なども考える。集中して友達の話や話を聴けるように5～6人を目安とし、時間設定に配慮する。描いた絵は保育室に掲示し、いつでも子ども同士で絵を通して会話を楽しめるような環境を工夫していく。 ●こどもまつりでは、さまざまなお店に客として参加し、やさしく接してくれる年長児とのやりとりを体験しながら、年長児にあこがれる気持ちを大切にしていく。次年度の年長児としての姿につながるように、年長児とのかかわり、ゆっくり楽しめるように時間を設定する。また、こどもまつり参加後には、クラス内で感想を話すなど、体験して感じたことをクラス内で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●人前で表現する楽しさを感じられるよう、朝の会の時間を利用し、みんなに見てもらえるステージ環境を設定したり、客側の子どもたちもその場で参加できるような声かけを工夫したりする。 ●遊びを継続できるように、コーナー拠点を多く設け、自分たちで集まって遊びを展開し、楽しめるようにする。準備や片づけが身につくよう、共有の教材や教具はわかりやすく掲示し、「活動のつづき」のものを置く場の設定も意識しながら環境を構成する。 ●おじいちゃんやおばあちゃんのことを想像しながら、気持ちを込めて絵手紙を描く。子どもたちそれぞれのメッセージは、保育者が聞いて絵手紙に書き入れる。描画材は、使い慣れているもので表現を楽しむ。郵便を届ける楽しさを感じられるよう、保育室に「手作りポスト」を用意し、自分で絵手紙を投函してみる。 ●運動量が増えて食事量が多くなった子、苦手な食材でもひと口食べてみよう頑張っている子など、さまざまな姿が見られる。それぞれ、完食する喜びを感じられるように、量の調整が必要な子どもたちには「相談」の時間を設ける。完食することで、「全部食べられた!」と自信につながるよう、量の調整について個々に保育者が対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなで踊る楽しさを感じられるように、保育者がオリジナルの物語を作り、お話の世界を通して運動会当日まで遊戯に楽しく参加できるような工夫や仕掛けをしていく。「もっとやりたい!」「ワクワクする!」といった気持ちが広がるよう、毎日の変化や発見を形にして掲示する（みんなで踊るごとに掲示したイラストに花をつけていくなど）。 ●運動会に向けて頑張ることばかりを伝えるのではなく、まずは意欲的に参加できるような工夫をしていく。自分で「頑張りたい!」「悔しい!」と思えたときに、一人ひとりの気持ちを受けとめてサポートできるようにする。 ●それぞれが自信を持って運動会に参加できるように、クラス内で友達のかっこいい姿や楽しく踊る姿を知らせ、互いに認め合う雰囲気を作っていく。 ●子ども一人ひとりが友達の誕生を祝い気持ちを持って誕生日に参加できるように、誕生月の子どもたちの言葉をゆっくりと紹介していく。 ●同じ誕生月の3歳児と5歳児の友達も一緒にお祝いに参加することで、園全体で祝う会の場を大切にします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運動会に参加することや内容についての話し合いでは、「ママにみてもらいたい!」「かけっこ1ばんになる!」など、今頑張っていることをクラスの友達に伝えたり、昨年度のことをみんなで思い出してみたりして、当日のイメージがふくらむように工夫する。 ●運動会当日は、日々の保育と雰囲気が多異なるため、緊張してしまう子や戸惑う子も出てくると予想される。なるべく普段の姿で参加できるような工夫や、日々の保育の中で積み重ねていく。「当日=本番」ではなく、「毎日がワクワク! 明日もやりたいね」と思える気持ちの中で、楽しく当日を迎えられるようにする。 ●遊戯で着用する衣装を子どもたちに見せ、当日の姿をさらにイメージしてみる（保育者も、子どもが踊りにくくないかなど、衣装の確認をしておく）。 ●自然物を使った製作遊びコーナーを設定する。自分で拾ったドングリや枯れ葉を使って自由に製作ができるよう、枯れ葉を貼る画用紙や、ドングリゴマを作る爪ようじなどの教材を用意しておく。また、枯れ葉に穴をあけてひも通しをする、枯れ葉を新聞紙に貼って葉っぱのスカートにするなど、子どもたちのアイデアが広がる教材の用意に加えて、何点か完成作品を用意しておく。何をすれば素材同士がくっつき、取れにくいかなど、のりや接着剤、粘着テープの扱い方を子どもたちが考えられるように配慮する。 ●自分で使った場所やものは、きれいに掃除する。ロッカーの引き出しの中なども、園に置いておくもの、家に持って帰るものを仕分けして、みんなで片づける。

家庭や地域との連携

- 運動会のプログラムや教育的なねらい、当日着用する衣装などについて、保護者にわかりやすく伝える機会を設定する（母親教室）。実際に園に足を運んでもらい、衣装の作り方など詳しく説明していく。オンラインでも公開し、一定期間自宅で閲覧できるよう工夫する。
- 運動会までの練習の様子や、遊戯のオリジナルストーリーなどはホームページなどで紹介し、当日一緒に楽しく参加できるように保護者と共有しておく。

今月の歌・絵本・手あそび

- 歌……「ドレミのうた」「とんぼのめがね」
「あつまれ!ファンファンファン」「はしるのだいすき」
絵本……「14ひきのおつきみ」「むしたちのうんどうかい」
手あそび……「十五夜さんのもちつき」「おちゃらかほい」

9月の保育実践を見つめなおす目

- 運動会が近づくにつれ、体を使った遊びや、遊戯の練習が多くなっていく9月。そんな中でも、自由に好きな遊びを楽しめる時間を保障し、教材や環境の設定を忘れずに行うことを大切にします。
- 遊びを通してさまざまな基礎や基本が身についていくこの時期だからこそ、自分で考えながら生活できるように保育者は環境を整える。使ったものを元の場所に戻せるように写真を使って表示したり、「活動のつづき」ができるようにものを置ける場を設定したりする。
- 友達の存在が大きくなっている今だからこそ、子ども同士のかかわりが広がり、やりとりが増えるきっかけ作りをしていく。

- 例①好きな遊びが見つからない……ワークショップ形式で、季節に合った製作遊びに誰でもいつでも参加できる「ワクワクコーナー」を設定。→製作好きの友達ができ!
- 例②砂場遊び大好き! でもひとりで泥だんご作り……砂場遊びが好きな友達に声をかけてメンバーを集め、「みんなで泥山工事」を始める。→「つづき」がわかる看板を作って設置することで、目的が同じ子どもたちが継続して遊びを楽しみ、やりとりが増える。